地域と連携・協働して実践する土曜授業

産山村立産山小・中学校

■研究の概要

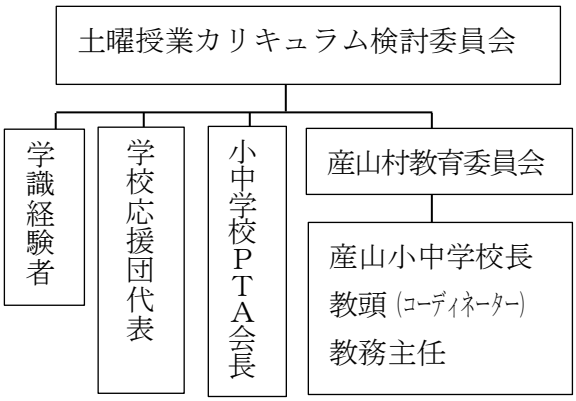
これまで実践してきた地域と連携した取組を継続・発展させた土曜授業を行う。また，小中一貫教育の中で，教育課程特例校の特色ある取組を生かした土曜授業を行う。これらの取組をとおして効果的な土曜授業のカリキュラムを開発・実践し，その成果の普及を図る。

■学校・地域の特徴

産山村は，阿蘇外輪山と大分県久住山麓の一角に位置し，世帯数約６００戸，人口１５００人余りであり，自然豊かなところである。しかし，一方では少子高齢化が進んでいる。学校教育や福祉については，特に力を入れている。

平成１９年４月に産山中学校に併設する形で産山小学校が開校し小中一貫教育に取り組んでいる。

■体制図



■年間カリキュラム

月	取組内容		
	小学校	中学校	小中共通
4	公開授業		
5			産山村・産山小中学校合同体育祭
6	体験活動等		子どもヘルパー活動
7	体験活動等	チャレンジ学習（数検）	
8			
9	校内水泳記録会（公開）	村内ガードレール清掃	
10		チャレンジ学習（数検）	小中一貫教育１０周年記念式典（平成２８年度）
11			産山村・産山小中学校学習発表会
12			村人権集会
1	体験活動等（祖父母参観）	チャレンジ学習（数検）	
2		公開授業	
3			卒業証書授与式

「家庭・地域との連携による授業や学校行事」に関する実践例

「わくわく教室（小学校低学年）」と「外部講師を招いた講話（小学校高学年）」の実施

■活動のねらい

○　低学年は時間を十分確保できる土曜日に，豊かな経験を培うために，地域住民との体験活動や外部講師を招いた体験活動を行う。

○　高学年は，教育課程特例校として実施している「チャレンジ学習」や「うぶやま学」等の学習を補完するため，地域住民等の講師を招いた講話を行う。

■１日のカリキュラム

<table>
<tr><th></th><th>１年生</th><th>２年生</th><th>３年生</th><th>４年生</th><th>５年生</th><th>６年生</th></tr>
<tr><td rowspan="2">１校時</td><td colspan="3">学校行事「わくわく教室①」</td><td rowspan="2">教科等</td><td rowspan="2">教科等</td><td rowspan="2">教科等</td></tr>
<tr><td colspan="2">放課後子ども教室スタッフとのゲーム，体験活動等</td><td>そろばんの学習</td></tr>
<tr><td rowspan="2">２校時</td><td colspan="3">学校行事「わくわく教室②」</td><td colspan="3" rowspan="3">平成２７年度
「チャレンジ学習」講話
（講師：塾講師，警察署員）
平成２８年度
「うぶやま学」講話
（講師：農業体験指導者，村文化財保護委員）</td></tr>
<tr><td colspan="3" rowspan="2">平成２７年度
◎木工教室，ピザづくり体験
松ぼっくり工作
平成２８年度
◎リグラスアート，創作書道</td></tr>
<tr><td>３校時</td></tr>
</table>

■実施上の工夫

◎「わくわく教室」（小学校低学年）

○　日頃，低学年を対象に行っている「放課後子ども教室」のスタッフを講師に迎えたり，外部講師を迎えたりして，豊かな体験活動を行った。

○　外部講師を招く際は，村教育委員会担当者と連携して講師を選定するようにした。

○　外部講師を招いて体験活動をする際は，「放課後子ども教室」のスタッフの方に子どもたちの活動の支援をお願いするようにした。

◎「外部講師を招いての講話」（小学校高学年）

○　講師は，地域出身の方や日頃体験活動の指導をしてくださっている方など，児童にとって身近な方から選定するようにした。

■学習内容の実際

◎「わくわく教室」（小学校低学年）

【木工教室】 講師を企業から招き，放課後子ども教室のスタッフが支援にあたった。低学年では使うことの少ないのこぎりやクギなども，多くの方の支援のもとで使いこなして作品を完成させた。	【ピザづくり】 放課後子ども教室のスタッフが講師になり，ピザづくり体験を行った。旧学校跡地にあるピザ釜で焼いて食した。初めての経験で子どもたちはとても喜んでいた。	【リグラスアート】 県環境センターから講師を招き，放課後子ども教室スタッフの支援のもとで，リグラスアートを作成した。作成前に環境問題の学習も行った。このような活動が，高学年での環境学習につながることを期待したい。

◎「外部講師を招いての講話」（小学校高学年）

【チャレンジ学習】講話 地域出身の塾の講師の方に来ていただき，「目標をもって学習することの大切さ」を，子どもたちに熱く語っていただいた。身近な方の体験をもとにした講話に，子どもたちも真剣に楽しく聞き入っていた。	【うぶやま学】「米作り」 体験のみで終わりがちであった米作りについて，日頃のご指導をお願いしている地域の方に講話をしていただいた。子どもたちは，米作りが環境と深く関わっていることを，講話をとおして学ぶことができた。	【うぶやま学】「産山の文化財」 文化財保護委員の方の講話を聞いた。産山のことを学習している子どもたちではあるが，講話をとおして「参勤交代の道」など貴重な文化財が産山にたくさんあることを知り，「もっと知りたい」という意欲をもつことができた。

■成果

○　土曜授業の２～３単位時間というゆとりを持った時間の中で，豊かな体験活動を行うことができた。外部講師を招く際も，まとまった時間を確保することができ，子どもたちも生き生きと活動したり，真剣に講師の話を聞いたりする姿が見られた。

○　日頃から，学習に協力してくださっている地域の方ではあるが，まとまった時間の中で「子どもたちと活動したい」「ゆっくり話をしたい」という声が何度となくあがっていた。土曜授業の中で，そのような機会を確保することができ，子どもたちも地域の方とのつながりを改めて感じることができていた。

「家庭・地域との連携による授業や学校行事」に関する実践例

教育課程特例校としての取組「子どもヘルパー活動」

■活動のねらい

○　家庭訪問，施設訪問及びサロン活動をとおしてお年寄りの方と交流することにより，住みよい地域づくりの一端を担う。

○　村民の方とよりよい人間関係を築くとともに，児童生徒の健全な成長を促す。

○　高齢化率が高い産山村で取り組む「豊かで安心して暮らし続けられる地域づくり」に，積極的に参画しようとする態度の素地を養う。

子どもヘルパー活動報告会
及び感謝状授与式

■１日のカリキュラム

	１年生	２年生	３年生	４年生	５年生	６年生	７年生	８年生	９年生
１校時 ～ ３校時	教科等の授業			子どもヘルパー活動				教科等の授業	
４校時							教科等の授業		

■実施上の工夫

○　産山村社会福祉協議会，産山村教育委員会及び小・中学校の各担当者が事前の打合せを行いながら活動を進めることで，地域と連携・協働し充実した取組となった。

○　年度始めに村内から来賓の方を招いた「子どもヘルパー任命式」を行い，産山村社会福祉協議会長（産山村長）から「子どもヘルパー任命証」を交付していただくことにより，責任をもって活動しようとする意欲をもたせた。

○　「子どもヘルパー研修会」（認知症サポーター養成講習会，高齢者疑似体験及び車いす体験等）を行うことで，高齢者に対する理解を深めさせた。

○　年度末に「子どもヘルパー活動報告会及び感謝状授与式」を行い，１年間の活動を振り返らせるとともに，産山村社会福祉協議会長から感謝状を授与していただくことにより，活動してきたことへの誇りをもたせ，今後も住みよい地域づくりの一端を担おうとする態度を養うようにした。

■学習内容の実際

「子どもヘルパー任命式」で，「子どもヘルパー任命証」をいただきました。

高齢者に対する理解を深めるため，高齢者疑似体験と車いす体験を行いました。

土曜授業では，体験したことを生かして，高齢者と交流したり，家や庭の掃除をしたりしました。いろんなお話を聞かせていただくこともありました。

「子どもヘルパー活動報告会及び感謝状授与式」で，１年間の活動を報告しました。

最後に「感謝状」をいただきました。

■成果

○　土曜日に実施することで，より長い活動時間を確保することが可能となり，高齢者を学校に招いて交流することができたため，充実した活動となった。

○　長時間の活動を行ったことにより，高齢者に対する理解が深まるとともに，今後の活動への意欲を高めることができた。

「保護者や地域住民等への公開授業」に関する実践例

祖父母等との体験活動及び参観授業（小学校）

■活動のねらい

○　日頃，授業を参観することが少ない祖父母の来校の機会を設け，学校教育への理解を図るとともに，土曜授業の目的や意義について理解・啓発を図る。

○　祖父母や地域住民の方に協力してもらうことで効果が上がると思われる体験活動を設定する。

■１日のカリキュラム

<table>
<tr><th></th><th>１年生</th><th>２年生</th><th>３年生</th><th>４年生</th><th>５年生</th><th>６年生</th></tr>
<tr><td>１校時</td><td rowspan="3">生活科
「昔遊びをしよう」
〇道具づくり体験
〇昔遊び体験</td><td>教科等</td><td rowspan="3">うぶやま学
「しいたけ種駒打ち体験」
〇駒打ち体験
〇食体験</td><td>教科等</td><td>教科等</td><td>教科等</td></tr>
<tr><td>２校時</td><td>国語科</td><td>教科等</td><td>教科等</td><td>教科等</td></tr>
<tr><td>３校時</td><td>国語科</td><td>国語科</td><td>国語科</td><td>国語科</td></tr>
</table>

※網掛け部分が祖父母等との体験活動及び参観授業

■実施上の工夫

○　祖父母を対象にした参観日として設定して，案内文及び学級通信等で案内した。

○　１，３年生は，祖父母と活動した方が教育効果が上がる授業を設定した。

○　他の学年は３時間の授業のうち，いずれかの時間帯を祖父母等への公開授業として設定するようにした。

○　当日の受付時に，各学年の授業内容や土曜授業の趣旨・目的を記載したプリントを配付し，土曜授業への理解・啓発を図るようにした。また，どの学年も参観してよいことをお知らせした。

○　日頃より，地域住民と連携した学習活動を行う際は，地域学校協働本部コーディネーター及び村教育委員会担当者と連携して，地域人材への協力依頼を行っている。１，３年生の体験活動では，日常の体験活動等と同じように，地域学校協働本部コーディネーターや村教育委員会担当者に，ゲストティーチャーや祖父母等の協力者の手配，体験活動の事前準備を行っていただいた。

■学習内容の実際

◎生活科「昔遊びをしよう」（１年生）

○　製作が難しい竹馬は，ゲストティーチャーに作り方を実演していただいた。	○　参観に来られた祖父母や保護者といっしょに笹舟を作ったり，お手玉を作ったりする体験活動を行った。	○　製作した昔遊びの道具を使って，祖父母や保護者と昔遊び体験を行った。

◎うぶやま学「しいたけの種駒打ち体験」（３年生）　　◎祖父母参観授業（他の学年）

○　しいたけ生産農家や祖父母，保護者の協力を得ながら，ほだ木への種駒打ち体験を行った。	○　駒を打ったほだ木を，しいたけ生産農家の方のご指導のもと，菌の活着を図るための仮伏せを行った。 ○　作業後に，しいたけを炭火で焼いての食体験も行った。	○　１，３年生以外の学年は教科等の授業を祖父母に公開した。教科や公開の時間帯は担任が決め，学級通信等で周知した。当日は子どもたちが協力しながら学習する姿を，微笑ましく参観されていた。

■成果

○　１，３年生は，午前中の３単位時間というゆとりのある時間設定の中で，十分な体験活動を行うことができた。

○　日頃から地域学校協働本部コーディネーターや村教育委員会担当者と連携した地域人材活用ができているため，土曜授業でこのような体験活動を行う際にも，適切な人材の選任，準備，当日の授業への協力が行われた。教師の負担も少なく，充実した体験活動を行うことができた。

○　参観する授業の時間設定は担任の裁量に任せ，どの学級でも自由に参観できるようにしたことで，日頃，来校する機会の少ない多くの祖父母に，授業の様子を気軽に参観していただくことができた。また，土曜授業の理解・啓発も図ることができた。

「通常の教科等の授業」に関する実践例

教育課程特例校としての取組「チャレンジ学習（数学検定）」

■活動のねらい

○　国語科及び数学科の学習と関連させ，生徒が向上心をもってより高い個人目標にチャレンジする学習（各種学外検定の受検）とし，生徒の学習意欲を喚起する。

○　国語科及び数学科の基礎的・基本的な知識・技能を定着させるとともに，思考力・判断力・表現力等を育む。

■１日のカリキュラム

	７年生	８年生	９年生
１校時 ～ ３校時	チャレンジ学習 （数学検定）		
４校時	産山村小中一貫教育１０周年記念式典		

■実施上の工夫

○　受検日を土曜日に設定することにより，課業日の教育活動にゆとりをもたせる。

○　個に応じた級を受検させることにより，それぞれの目標を明確にして学習に取り組ませる。

○　年３回の受検料の負担を軽減するため，産山村教育委員会より受検料の補助をいただいている。

■学習内容の実際

各級の会場で，それぞれの目標の合格に向けてチャレンジします。

検定終了後の時間を活用し，「産山村小中一貫教育１０周年記念式典」を開催しました。

■成果

○　受検日を土曜日に設定することで，課業日の教育活動にゆとりを生み出すとともに，記念式典を併せて実施したことにより，多くの村民の方に出席していただくことができた。

２年間の研究のまとめ

■取組の成果

○　これまで産山村では，学社融合事業，「子どもヘルパー事業」，「わいわいヒゴタイ土曜塾」，「放課後子ども教室」，「学校支援地域本部事業」など，村教育委員会や地域と連携した取組を行ってきた。それらの取組を継続・発展させる形で土曜授業の中に取り入れて実施することができた。

○　すでに組織されている地域学校協働本部や学校応援団等のネットワークを生かし，地域人材を活用した土曜授業を実践することができた。

○　体験活動等の計画や準備においても，産山村教育委員会や地域人材の協力が十分に得られるため，教職員があまり負担を感じることなく充実した体験活動を実施することができた。

○　土曜授業カリキュラム検討委員会を年３回実施している。その会の中で実践上の成果や課題が検討され，それをもとにカリキュラムの改善を図ってきた。また，検討委員会のメンバーの一部の方は，学校運営協議会の委員を兼ねているとともに，土曜授業の支援にも学校応援団として関わっていただいている。そのため土曜授業に対する貴重な意見をいただくことができている。

○　土曜日の午前中というゆとりある時間帯の中で，２～３単位時間の連続した体験活動を実施することができた。また，学習効果を高めることができた。

○　平日の授業参観等に仕事等の都合で参加できない保護者から，土曜授業の参観は「参加しやすい」「とても助かる」という意見が寄せられた。

○　体育祭や学習発表会を村の各種団体と連携して実施することで，土曜授業が村民と児童生徒が交流する機会となっている。

○　土曜日に学校行事等を設定することで，平日の教科等の授業時数を確保することができ，学習指導の充実を図ることができた。

■取組の課題

○　小学校では，習いごとなどと土曜授業日が重なり欠席する児童がおり，土曜授業への全員の参加が難しいことがあった。

○　地域人材を活用した授業の充実が図られたが，その人材が固定化しつつある。年間の計画的な授業を基本にしつつも，地域人材をより活用できる柔軟なカリキュラムも必要である。

○　異動により教職員が入れ替わるが，産山村の土曜授業の基本的な考えを理解させる機会が不足していた。

■今後の方向性

○　土曜授業の目的や基本的な考え方を職員が共通理解したうえで実践するとともに，その成果を地域にも積極的に発信していくことで，地域のこれまで以上の参画と理解，そして地域とともにある学校づくりに取り組んでいきたい。